

歴代住持推移表 2024.12.12更新

- 注1、郷土資料館寄託文書、棟札、仏像、その他笠置寺保存文書、各種の文献、上人墓に残る墓石などから調査
 注2、前後に同一住持の名がある場合はそれを挟む期間、当該住持が現住していたと判断。
 注3、院の名だけで住持の名がないものは「某」とした。
 注4、「寺中」、「御寺中」、「衆徒中」などのように3院中どの院かが特定できないものは三院とも住持在任とはしなかった。
 注5、住持名等若干不確かなものは？印を付した。
 注6、Noは郷土資料館寄託文書番号 月は当該文書日付

年代	西暦	生	福寿院	文殊院	多聞院	福寿院	文殊院	多聞院
慶長5	1600	子						
慶長6	1601	丑						
慶長7	1602	寅						
慶長8	1603	卯						
慶長9	1604	辰						
慶長10	1605	巳						
慶長11	1606	午						
慶長12	1607	未						
慶長13	1608	申						
慶長14	1609	酉						
慶長15	1610	戌		真弘			礼堂建立本願、慶長15年7月上棟（正和版笠置寺縁起）	
慶長16	1611	亥						
慶長17	1612	子						
慶長18	1613	丑						
慶長19	1614	寅						
元和1	1615	卯						
元和2	1616	辰						
元和3	1617	巳						
元和4	1618	午						
元和5	1619	未						
元和6	1620	申						
元和7	1621	酉						
元和8	1622	戌						
元和9	1623	亥						
寛永1	1624	子	某	某	某	藩寄附状に文殊院、福寿院、多聞院の名宛て（8月）	藩寄附状に文殊院、福寿院、多聞院の名宛て（8月）	藩寄附状に文殊院、福寿院、多聞院の名宛て（8月）
寛永2	1625	丑						
寛永3	1626	寅						
寛永4	1627	卯						
寛永5	1628	辰						
寛永6	1629	巳						
寛永7	1630	午						
寛永8	1631	未						
寛永9	1632	申						
寛永10	1633	酉						
寛永11	1634	戌						
寛永12	1635	亥						
寛永13	1636	子						

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
寛永14	1637	丑						
寛永15	1638	寅						
寛永16	1639	卯						
寛永17	1640	辰						
寛永18	1641	巳						
寛永19	1642	午						
寛永20	1643	未						
正保1	1644	申						
正保2	1645	酉						
正保3	1646	戌						
正保4	1647	亥						
慶安1	1648	子						
慶安2	1649	丑						
慶安3	1650	寅						
慶安4	1651	卯						
承応1	1652	辰						
承応2	1653	巳						
承応3	1654	午						
明暦1	1655	未						
明暦2	1656	申						
明暦3	1657	酉						
万治1	1658	戌						
万治2	1659	亥						
万治3	1660	子						
寛文1	1661	丑						
寛文2	1662	寅						
寛文3	1663	卯						
寛文4	1664	辰						
寛文5	1665	巳						
寛文6	1666	午						
寛文7	1667	未	文	某			笠置寺惣代に文殊院（大和山城奉行記録、8月）	
寛文8	1668	申		某			藩主越国時お目見総代文殊院7/23	
寛文9	1669	酉						
寛文10	1670	戌						
寛文11	1671	亥						
寛文12	1672	子	某		某	8/15藩主越国で不動院、福寿院、多聞院お札差し上げ挨拶		8/15藩主越国で不動院、福寿院、多聞院お札差し上げ挨拶
延宝1	1673	丑						
延宝2	1674	寅						
延宝3	1675	卯	某	某	某	境内境目確定に5院の宛先（大和山城奉行記録、4月）	同左	同左
延宝4	1676	辰						
延宝5	1677	巳						
延宝6	1678	午						

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
延宝7	1679	未						
延宝8	1680	申						
天和1	1681	酉			圓真			住持圓真の時、道淳、毘沙門天王記を記す(9月)
天和2	1682	戌	某	某	智盛、頼順、良順	知足院先住長運領下より追放(2月宗国史、収蔵庫文書)。3ヶ寺津へ出候(永保記事略、6月)	多聞院先住智盛、頼順、良順領下より追放(2月宗国史、収蔵庫文書)。3ヶ寺津へ出候(永保記事略、6月)	
天和3	1683	亥						
貞享1	1684	子	後宗	堯善	順養	貞享元年10月藩からの通達、笠置寺所蔵文書より。3ヶ寺へ判物下さる(永保記事略、12月)	同左	同左
貞享2	1685	丑						
貞享3	1686	寅						
貞享4	1687	卯			ト信			月譚春に来る(巖居稿)。同行の雲松律師がト信と旧好あり
元禄1	1688	辰			ト信	某		文殊院宛借家願に多聞院口入書判(6月 No3)
元禄2	1689	巳			ト信			黄檗宗の僧、月潭に笠置山記の重製を依頼、文殊院ト信(笠置山記)
元禄3	1690	午			ト信			
元禄4	1691	未			ト信			正月堂観音台座にト信の銘あり(5月)ト信の墓があるが埋葬年月は読めず
元禄5	1692	申						
元禄6	1693	酉						
元禄7	1694	戌						
元禄8	1695	亥	某					畑預かり証文福寿院宛(11月、No4)
元禄9	1696	子						
元禄10	1697	丑	通全	堯円	順養	元禄10年寺社宗門帳より(加茂町史P181)	同左	同左
元禄11	1698	寅	通全	堯円				
元禄12	1699	卯	通全	堯円				
元禄13	1700	辰	文	通全	堯円			石灯籠代受取証に笠置山惣代として文殊院発行(11月、藩裁許状の宛名3院(9月 No539))
元禄14	1701	巳	通全、4月退院	堯円	某	3坊中福寿院住僧退院せしむ(永保記事略、4月)藩裁許状の宛名3院(9月 No539)		同左
元禄15	1702	午		堯円				
元禄16	1703	未						
宝永1	1704	申	某	堯円	某	藤堂藩から地蔵講式等寄進状の宛先に3院の名(永保記事略、笠置寺保存現物)	藤堂藩から地蔵講式等寄進状の宛先に3院の名(永保記事略、笠置寺保存現物)	藤堂藩から地蔵講式等寄進状の宛先に3院の名(永保記事略、笠置寺保存現物)
宝永2	1705	酉		堯円				
宝永3	1706	戌	某	堯円		福寿院宛屋敷預かり証文(8月 No26)		
宝永4	1707	亥						
宝永5	1708	子	某	堯円		殿様厄年のため福寿院護摩執行(永保記事略、8月)		
宝永6	1709	丑						
宝永7	1710	寅		堯円				
正徳1	1711	卯						
正徳2	1712	辰		堯円				
正徳3	1713	巳		少なくとも8月以前に無住		先住として福寿院通全名前あり(8月、No22)	文殊院先住堯円の記事、去年先住伐取、売り払いとの記事から堯円は正徳2年まで文殊院住持であったと判定(8月 No22)当年文殊院無住の節との記事(8月、No22)。	

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
正徳4	1714	午						
正徳5	1715	未						
享保1	1716	申						
享保2	1717	酉	某			福寿院名にて子院狭川薬師寺移転に関する一件書類あり(11月、No25)。		
享保3	1718	戌						
享保4	1719	亥						
享保5	1720	子						
享保6	1721	丑						
享保7	1722	寅		寂門(2月)			笠置寺所有の畑の調査に立ち会い。寂門(2月、No28)。屋敷文殊院より賃借(2月)	
享保8	1723	卯		寂門				
享保9	1724	辰		寂門				
享保10	1725	巳		寂門				
享保11	1726	午		寂門				
享保12	1727	未		寂門				
享保13	1728	申	惣代文 春龍(11月)	寂門(11月)	智見(11月病氣)	寺院調べに福寿院春龍(11月、No59)不動院、知足院は無住との記載(No57、11月)	寺院調べに文殊院寂門(11月、No59)。文殊院惣代のサイン(No58、11月)	寺院調べに多聞院智見(11月、No59)。多聞院僧への詫ひ状(享保3年2月 No55、56)智見病氣(11月 No57)
享保14	1729	酉	某	某	某	田地預かり証文宛先に福寿院(No59、2月)。涅槃像代金受取証宛先3院(No61、9月)	同左	涅槃像代金受取証宛先3院(No61、9月)
享保15	1730	戌						
享保16	1731	亥						
享保17	1732	子						
享保18	1733	丑						
享保19	1734	寅						
享保20	1735	卯						
元文1	1736	辰						
元文2	1737	巳		某			宗旨請状に宛名文殊院(No66、2月)	
元文3	1738	午			光専			十一面尊記(元文3、8)に多聞院主光専(墓あり)名
元文4	1739	未						
元文5	1740	申						
寛保1	1741	酉						
寛保2	1742	戌						
寛保3	1743	亥						
延享1	1744	子						
延享2	1745	丑	某			福寿院古市へ(No500、11月)		
延享3	1746	寅						
延享4	1747	卯		某			宗判料受取状に文殊院印(No73 12月)	
寛延1	1748	辰	某			宗判料受取状に福寿院印(No75 12月)		
寛延2	1749	巳						
寛延3	1750	午						
宝暦1	1751	未						

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
宝暦2	1752	申		林亮			林亮、宗門改めに真言宗僧であることを奉行所に届出 (No70 6月)	
宝暦3	1753	酉						
宝暦4	1754	戌						
宝暦5	1755	亥						
宝暦6	1756	子	年預代福	某		福寿院が年預代として子院の色袈裟着用等を許可、文殊院か多聞院のどちらか又は2院が無住 (5月、No81)		
宝暦7	1757	丑						明泉、多聞院? (11月亡)の墓碑あり
宝暦8	1758	寅						
宝暦9	1759	卯						
宝暦10	1760	辰		慈道	某	某	3院名による申渡状 (宝暦10年2月、No82号)。福寿院慈道弟子の敬恵1月亡 (墓碑)	3院名による申渡状 (宝暦10年2月、No82号)
宝暦11	1761	巳						
宝暦12	1762	午						
宝暦13	1763	未						
明和1	1764	申		某	周海	某	3院で藩へ願い出 (No85、9月)	土砂加持料覚に文殊院周海がサイン (1月、64)。3院で藩へ願い出 (No85、9月)
明和2	1765	酉			周海			周海、貞享の制札を写す (No2 5月)
明和3	1766	戌		某	周海	某	3院連名で年貢免除等願い出 (No82、1月)	3院連名で年貢免除等願い出 (No82、1月)
明和4	1767	亥			周海			
明和5	1768	子			周海		智縁、福寿院?多聞院? (9月亡)の墓碑あり	
明和6	1769	丑			周海			
明和7	1770	寅		周海 (6月には在住)その後延精	雲巖 (3月より)		周海、藤堂和泉守逝去、笠置寺惣代として上野で焼香 (6月)、その後延精図示	雲巖の身元保証 (3月 No94) 雲巖の出身はは神野寺真覚の弟子
明和8	1771	卯		某	延精	雲巖	山田立毛御見分願帳に3院連名。内 (No88、115、8月)	山田立毛御見分願帳に3院連名。内文殊院住持の印は延精と読める (No88、115、8月)
安永1	1772	辰			延精	雲巖または雪巖あるいは雪巖に交代か		印判変更願に雪巖 (3月 No119) 雪巖は雲巖の弟子か?
安永2	1773	巳			延精	雪巖または快巖か		勅化銀預かり多聞院宛 (5月、No121) 毘沙門天厨子見積もり名宛ては多聞院だが住持は快巖か (一連の作業として)
安永3	1774	午		某	延精	雪巖または快巖か	判物受領の手続きにつき藩からの達し (1月 419) 3院宛	判物受領の手続きにつき藩からの達し (1月 419) 3院宛
安永4	1775	未			延精	雪巖または快巖か		
安永5	1776	申			延精	快巖		快巖毘沙門天厨子背面に多聞院現住として署名 (7月)
安永6	1777	酉			延精	快巖		
安永7	1778	戌			延精9月亡	快巖		延精の墓碑 (安政7.9亡)
安永8	1779	亥				快巖		
安永9	1780	子				快巖		
天明1	1781	丑				快巖		
天明2	1782	寅				快巖		
天明3	1783	卯				快巖		
天明4	1784	辰				快巖		
天明5	1785	巳	多	信定	留守居のみ	快巖	福寿院信定2月に亡 (墓碑銘)。	文殊院留守居様との記事あり (4月 No101)
								多聞院宛て文書4月No99 祐信院記録書写 (No111)。三坊宛ての封書あり (5月、No104)。

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
天明6	1786	午			快巖			
天明7	1787	未			快巖(1,2月迄か)			多聞院快巖は宝暦9年の遷宮入用控を記す(1月、No124)。多聞院雪巖は念仏寺住持の宗旨請状を書く(3月、No125)。雪巖は安永2年頃から快巖とともに多聞院を守っていたのか
天明8	1788	申						
寛政1	1789	酉						
寛政2	1790	戌	福	智雲	耕道	雪巖	寺院住持人別名前改帳に 耕道 35歳40歳の名(4月、No127)	寺院住持人別名前改帳に住持雪巖59歳の名(4月、No127)。快巖、阿闍梨位授与(10月、聖教)
寛政3	1791	亥		智雲	耕道	某(雪巖?)	3院古市へ風雨による破損修復願(庁事類編、10月)	宗旨請状に印(No128、12月)。3院古市へ風雨による破損修復願(庁事類編、10月)
寛政4	1792	子		智雲	耕道			
寛政5	1793	丑		智雲	耕道			
寛政6	1794	寅		智雲	耕道	某		宗旨請状に多聞院(7月No129。寛政3年No128の雪巖とは筆跡異なる)
寛政7	1795	卯		智雲	耕道			
寛政8	1796	辰		智雲	耕道	某		多聞院弟子 智光 の宗旨請状に多聞院(8月 No130。寛政3年No128の雪巖とも寛政3年No129とも筆跡異なる)
寛政9	1797	巳		智雲	耕道	某		多聞院持仏堂再興願多聞院印(6月 No131)
寛政10	1798	午		智雲	耕道	快恵		毘沙門天宮殿再建棟札に多聞院 快恵 (慧)の記(9月)毘沙門天堂再建棟札に先住 快恵 、現住 実運 の記載
寛政11	1799	未		智雲	耕道	快恵		快恵写経供養の記事(聖教1947月)
寛政12	1800	申		智雲	耕道	快恵		
享和1	1801	酉		智雲	耕道	快恵、隠居願8月、11月亡 実運		多聞院快恵は 慶隨 の4代前多聞院住持として名あり(No162)。享和元、11に死亡(墓碑銘)。多聞院隠居後住願聞届候事(8月、廳事類編)
享和2	1802	戌		智雲	耕道	実運		多聞院 実運 は 快恵 が患った(享和元年)あと7年間住持(No162)。
享和3	1803	亥		智雲	耕道	実運	京都町奉行森川越前守登山の出迎え三院(3月、No4、133)	同左 aw
文化1	1804	子	多	智雲	耕道	実運	毘沙門天結縁供養願い書に年預多聞院、付添福寿院(2月No138 同11月 なお建札に多聞院名のないものもあり、手分けして回ったか)	年預多聞院より毘沙門天結縁供養願い書(2月、No313)。毘沙門天入仏供養棟札に多聞院先住 快恵 、現住 実運 とある(3月、No6-17)。年預多聞院(2月、138)
文化2	1805	丑		智雲	耕道	実運	京都町奉行曲淵和泉守登山について三院出迎(4月、No141)	同左 同左
文化3	1806	寅	文	智雲	耕道	実運		につき
文化4	1807	卯		智雲	耕道	匡泉(実運は文化4.10亡)	楠正成お守り譲り受け証文に文殊院 耕道 、福寿院 智雲 、多聞院 匡泉 の旨(3月、No142)。	同左 楠正成お守り譲り受け証文に文殊院 耕道 、福寿院 智雲 、多聞院 匡泉 の旨(3月、No142)。 実運 は既に病となって 匡泉 が多聞院住持だったか(実運 は文化4.10に死亡(墓碑銘))
文化5	1808	辰		智雲又は智仍?	耕道			
文化6	1809	巳		智仍	耕道	潮音	文殊院耕道の宗旨請証文(3月No143)判物書替説明内容に 智仍 、 耕道 、 潮音 の名あり(9月、No497)、文殊院耕道が多聞院潮音の身元引受(No143、3月)	住持身元引き受けとして 潮音 あり(No143、3月)文殊院耕道の宗旨請証文(3月 No143)判物書替説明内容に 智仍 、 耕道 、 潮音 の名あり(9月、No497) 敵海 が 実運 と 慶隨 の間に住持(No162)
文化7	1810	午		智仍	耕道			

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院	
文化8	1811	未	文殊院代福	智仍	耕道1月入 牢6月退 院	琢瑞	高野山触書に対する署名に印 (12月 No145) 上人600 年法要につき藩への願書に笠置 寺惣代福寿院のサイン(10月 No147)	文殊院耕道吟味筋につき入牢申 しつけ(1月、No6-4)。耕道 退院(6月、庁書類編)。多聞 院付添のサインあり(11月、 No147)。高野山触書受領に つき文殊院無住のため福寿院代 印(12月、No145)。包紙 (9月)。	多聞院琢瑞役所に呼び出され、 先々匡泉の事で多聞院の世碑除 かれる(1月、庁書類編)。多 聞院付添のサインあり(11月、 No147)。高野山触書受領に つき多聞院福寿院代印(12月、 No145)。包紙(9月)。多聞 院惣代(11月、No147)。多 聞院留守との端書きあり(越国 入用覚書 9月 No146) 上 人600年法要につき藩への願書 に多聞院のサイン(10月26日 No147)
文化9	1812	申	福	智仍 2月 まで	無住	琢瑞 2月 まで	福寿院智仍支障あり(2 月、No148)、多聞院が代理す る旨のサインあり(2月、 No147、148、149)。 1月に琢瑞をが藩が呼び出し(庁事 類編1月29日) 3院とも支障あり、 上人遠忌の事後処理は福寿院を代理 して子院の西福寺がサイン(4月、 No434) 智仍、琢瑞の赦免願 (2月、148) 建礼引き取り福寿 院に代わり多聞院(4月 No147) 宗門請込書に福寿院代 多聞院とあり(12月No149)	文殊院は耕道が入牢処分となっ たあと無住。資料148。3院と も支障あり、上人遠忌の事後処 理は福寿院を代理して子院の西 福寺がサイン(4月、 No434)。(智仍、琢瑞の赦 免願(2月、148)	福寿院智仍支障あり(2 月、No148)、多聞院が代理す る旨のサインあり(2月、 No147、148、149)。3院 とも支障あり、智仍、琢瑞の赦 免願(2月、148)
文化10	1813	酉	多	智仍?	無住	琢瑞?	高虎碑の説明に福寿院(智仍)謹 慎は解けたか)と多聞院(6月 No150)藩からの礼状は福寿 院と多聞院(9月 No322)		年預として越国書類入れ作成藩 主出迎え、福寿院と多聞院 藩 からの礼状は福寿院と多聞院 (9月 No322)
文化11	1814	戌		智仍?	無住?	琢瑞?	宗旨請け状に福寿院の印あり (No153、1月)		
文化12	1815	亥		智仍?	無住	琢瑞?	要人登山の際の接待方法問い合 わせは福寿院、多聞院からで (8月、No310)	要人登山の際の接待方法問い合 わせは福寿院、多聞院からで文 殊院の名はない(8月、 No310)	要人登山の際の接待方法問い合 わせは福寿院、多聞院(8月、 No310)
文化13	1816	子		智仍?	無住	琢瑞?	笠置寺2院との記事と多聞院、 福寿院のサイン(6月、No155)	(6月、No155)に文殊院の名 がなく、文化13年当時もまだ無 住	笠置寺2院との記事と多聞院、 福寿院のサイン(6月、 No155)
文化14	1817	丑		智仍	恭春	琢瑞	三院田畑字有敬覚帳に福寿院知 仍、多聞院琢瑞、文殊院恭春の サイン(4月、No54)。栗栖寺の 件で3印連名(10月、 No157)。役所からの通知が 文殊院だけへ(No494、2 月)。3院諸堂修復願 (No97、9月)	三院田畑字有敬覚帳に福寿院知 仍、多聞院琢瑞、文殊院恭春の サイン(4月、No54)。栗栖寺の 件で3印連名(10月、 No157)。役所からの通知が 文殊院だけへ(No494、2月) (No494、2月)。3院諸堂修 復願(No97、9月)	三院田畑字有敬覚帳に福寿院知 仍、多聞院琢瑞、文殊院恭春の サイン(4月、No54)。栗栖寺の 件で3印連名(10月、No157)。 多聞院毘沙門天大破 による動化免除願(11月、 No158)。役所からの通知が文殊 院だけへ(No494、2月)(No494、 2月)。3院諸堂修復願(No97、9 月)
文政1	1818	寅		智仍		慶隨(文 化2年から 住持と言 うが?)			多聞院慶隨は文化2年当時9年 以前から住持(No162)。琢 瑞との関係は不詳。文政年間 は長く住持を勤める者もなく1 ~2年で退院又は逐電する者も あった(No196)
文政2	1819	卯	福	智仍	某	慶隨	福寿院、多聞院古市へお礼参上 (6月、No160)。当尾法雲院 無住につき院代に文殊院との願 い出に3院印付きサインあり(11 月、No161)	古市へ文殊院伺い(6月 No160)当尾法雲院無住につ き院代に文殊院との願い出に3 院印付きサインあり(11月、 No161)	福寿院、多聞院古市へお礼参上(6 月、No160)。当尾法雲院無住につ き院代に文殊院との願い出に3院印 付きサインあり(11月、No161) (11月、No161)。多聞院慶隨 のサインあり、慶隨は9年以前より住 持、実運は快恵の弟子で快恵死亡 後七年間住持、融海も住持だったと いう(12月、No162)
文政3	1820	辰		智仍		慶隨?			
文政4	1821	巳		智仍		慶隨? 高眼(12 月より)	多聞院後住に高眼(68才 No278-6)をと福寿院が願 い(12月、No166)。勝福寺宗 旨請状に福寿院智仍のサインあり (3月、No163)		多聞院後住に高眼(68才 No278-6)をと福寿院が願 い(12月、No166)
文政5	1822	午	多	智仍	無住?	光眼	宗旨請状に福寿院智仍のサイン(3 月、No167)。修理箇所(含文 殊院)書き上げに多聞院、福寿 院印(12月、No169)。	修理箇所(含文殊院)書き上げ に多聞院、福寿院印あるも文殊 院なし(12月、No169)。	大乗院様からみ多聞院印あり (4月、168)。修理箇所(含 文殊院)書き上げに多聞院、 福寿院印あるも文殊院なし(12 月、No169)。
文政6	1823	未		智仍	某?	無住?	戸田采女登山に文殊院と福寿院 出迎え(3月、No369)		戸田采女登山に多聞院迎えず、 無住か(3月、No369)
文政7	1824	申		智仍		光眼			
文政8	1825	酉		智仍		光眼			
文政9	1826	戌		智仍		光眼			

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院	
文政10	1827	亥	智仍	無住	高眼→高巖(8月)	藤堂高猷登山に際しての接待に関する書類は福寿院 智仍 (8月、No504)。従って福寿院 智仍 は文化6年判物書換時より文政10年までの18年以上住持(No398で住持代りのお礼をしている)。藩主来山御礼は福寿院、多聞院(No322、9月No504、8月間い合わせ)。高猷参詣の通知は福寿院、多聞院(No527、9月)藩役人が笠置寺にお礼、福寿院、多聞院宛て(9月 No322)		高眼?が隠居し、弟子 高巖 の願い(8月 No454)藩主来山御礼は福寿院、多聞院(No22、9月 No504、8月間い合わせ)。高猷参詣の通知は福寿院、多聞院(No527、9月)藩役人が笠置寺にお礼、福寿院、多聞院宛て(9月 No322)	
文政11	1828	子	福	円成(10月には在住)	無住	光巖	建礼願いに多聞院、福寿院の印筆跡は円成(10月、No179)。建礼願いに福寿院が年預(12月、No180)。	建礼願いに文殊院なし。'無住	建礼願いに多聞院、福寿院の印(10月、No179)。
文政12	1829	丑	福	円成	無住	光巖	福田寺住持学如の宗旨請状を年預の福寿院 円成 が文殊院無住に付き発行(3月、No182)。		光巖(高巖弟子)は文政10年住持就任か、跡目御礼(454) → 不明
天保1	1830	寅		円成	無住	光巖	子院神宮寺住持について福寿院 円成 が証文出し(3月、No71)		
天保2	1831	卯		円成	無住	光巖	福寿院 円成 が枯木無断売却につき赦免願(2月、No183)		
天保3	1832	辰	円成いたか?無住か?	無住	光巖10月頃まで	宗旨請けの宛名福寿院(4月、187)多聞院名なし。⇒光巖は什物を組合に渡して10月で退院したのか(No478)、12月から多聞院無住中過米積立勘定長がはじまっている(12月、No193)。福寿院、多聞院宛て(No478 10月)	笠置寺本堂護摩堂什物帳、多聞院、文殊院什物帳(11月、No188、189)は文殊院 秀栄 名で作成。福田寺住持願いの宛先に本寺文殊院(12月 No191)	多聞院 光巖 、文殊院 秀栄 事件につき事情説明(10月、No185)多聞院什物改めに文殊院 秀栄 が印(11月 No189)多聞院無住中過米積立勘定帳(12月 No192) → 明治4年12月まで	
				秀栄	光巖→無住(10~12月より)?				
天保4	1833	巳	無住	秀栄	無住	文殊院より観真を無住の福寿院住持に推薦(4月、No199)。但し村方に田畑を任すにつき文殊院と福寿院の名(2月、194 既に観真が入っていたか)天保5年観真のケイ(資料195)。多聞院先住光巖取調の筋有之(費用精算、6月、No331)	文殊院より観真を無住の福寿院住持に推薦(4月、No199)	資料195には多聞院なし。笠置山田畑等村方悪作願書に多聞院名なし(2月、No195)。多聞院先住光巖取調の筋有之(費用精算、6月、No331)	
			観真(4月頃)						
天保5	1834	午	観真	秀栄	無住(自教は村方意見により実現せず)	多聞院に 自教 をとどの福寿院、文殊院の奉行所への願(No200)。福寿院 観真 と文殊院 秀栄 のケイ(2月、No195)一年後観真はすでに住持となっていた(2月 No195)	多聞院に 自教 をとどの福寿院、文殊院の奉行所への願(No200)。福寿院 観真 と多聞院 秀栄 のケイ(2月、No195)	多聞院無住の記事(2月No195 6月、No192)。多聞院に 自教 をとどの福寿院、文殊院の奉行所への願(No200)。村方反対で(6月、201)で実現せず。多聞院無住との記事(2月、No195)。福寿院 観真 と文殊院 秀栄 のケイ(2月、No195)。天保5年より寺領米村方預かり(1月、No192)。文殊院、福寿院宛て、多聞院なし(No479、10月)多聞院過米金は文殊院へ(12月、No192)	
天保6	1835	未	某(観真?)	秀栄	7月頃迄無住	多聞院後住に 智観 をとどの福寿院、文殊院からの願い(8月、No200)	文殊院弟子 明恵 が毘沙門堂侵入の泥棒の件で京奉行所へ出した写を藩に出さなかったこと詫(7月、No205)多聞院に住持がいなかったためか	多聞院後住に 智観 をとどの福寿院、文殊院からの願い(8月 No200)	
					智観				
天保7	1836	申	無住	秀栄	智観		文殊院 秀栄 の宗門改めについて多聞院 知観 のケイ(3月、No72)。	文殊院 秀栄 の宗門改めについて多聞院 知観 のケイ(3月、No72)。過米金渡し先多聞院(12月、No192)	
天保8	1837	酉	無住(12月より)→明栄、村方意見により実現せず	秀栄	智観	多聞院、文殊院から 秀栄 弟子の 明栄 を福寿院住持にしたき旨の願い(8月、No210)。これに付き村方意見は否定的(11月、No212)。福寿院掃除料を多聞院に、福寿院入用を文殊院にそれぞれ渡している、12月、No193)。 明栄 住持は実現しなかったと思われる。天保8年から明治4年12月まで福寿院無住中過米積立勘定あり(12月、No193)	多聞院、文殊院から 秀栄 弟子の 明栄 を福寿院住持にしたき旨の願い(8月、No210)。これに付き村方意見は否定的(11月、No212)。福寿院掃除料を多聞院に、福寿院入用を文殊院にそれぞれ渡している、12月、No193)。 明栄 住持は実現しなかったと思われる。天保8年から福寿院無住中過米積立勘定が始まっている(12月、No193)	多聞院、文殊院から 秀栄 弟子の 明栄 を福寿院住持にしたき旨の願い(8月、No210)。銀子勘定に多聞院渡し(No96 4月)	
					智観				
天保9	1838	戌	無住(12月に観如を住持にとの願)	秀栄	智観	福寿院無住につき 観如 を住持にとの奉願(天保9年12月 No491)。福寿院入用銀が文殊院へ手渡される(12月、No193)観如の住持就任は遅れて年を越したか	福寿院入用銀が文殊院へ手渡される(12月、No193)		
天保10	1839	亥	観如	秀栄	智観				

年代	西暦	年	住	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
天保11	1840	子		観如	法全?	智観	福寿院、多聞院連名で文殊院秀栄老衰隠居願い(6月、No213)。	福寿院、多聞院連名で文殊院秀栄老衰隠居願い(6月、No213)。嘉永2年秀栄死亡時に「先文殊院」とある	福寿院、多聞院連名で文殊院秀栄老衰隠居願い(6月、No213)。
天保12	1841	丑		無住	法全?	智観	福寿院入用銀が文殊院へ手渡される(12月、No193)		毘沙門堂修復工業に講中惣代で願い出、多聞院無住か(10月No215)。
天保13	1842	寅		無住	法全?	智観	福寿院入用銀が文殊院へ手渡される(12月、No193)		子院僧が多聞院住持に無礼あり、詫び状提出(5月No220)
天保14	1843	卯	多	無住 是忍(5月以降)	法全?	智観	無住の福寿院に是忍を(5月No222)宛名に多聞院、福寿院(閏9.16 No533)	村方から福寿院住持に是忍とする事に文殊院が承諾したことのお礼(221 No221)	笠置山年預時写多聞院の署名(7月No223)宛名に多聞院、福寿院(閏9.16 No533)
弘化1	1844	辰	文	是忍	法全?	智観		福田寺住持に豊純をとの銭司村の願いに文殊院宛(2月 No225)年預文殊院の署名(12月)	
弘化2	1845	巳		是忍	法全	智観	12月21日古市へ(年預覚帳203 12月4日)	法全古市へ(12月25日、No203)	
弘化3	1846	午	多	是忍	法全	智観	聖教に福寿院即成の記事(施餓鬼法則9月上旬)。即成は嘉永元年7月死亡(墓碑銘)	法全1月6日、古市へ(年預覚帳203)、12月25日 宗旨送状文殊院宛(5月 No231)大風被害3院分届け(7月No032) 文殊院住持周栄(秀栄?、嘉永2、7亡)老衰のため、法全(33歳)を住持に願い(12月 No234)	
弘化4	1847	未	文	是忍	法全	智観			
嘉永1	1848	申	文	7月、住持是忍死亡により無住となる 無住	法全	智観	福寿院無住につきの文(12月No207)3院の修理願に3院判(4月 No238)? 作徳米割戻に福寿院印無し(3月No241 12月 No239) 是忍病気のところ死亡(7月17日 No242) ほぼ同時死亡の即成(も住持だった?)は嘉永元年7月16日亡(墓碑銘)	年預文殊院から高野山御書うつし配布(3月 No237)3院の修理願に3院判(4月 No238)作徳米割戻に文殊院、多聞院の印判あり、福寿院印無し(12月 No239)	3院の修理願に3院判(4月No238) 作徳米割戻に文殊院、多聞院の印判あり、福寿院印無し(12月 No239)
嘉永2	1849	酉	文	無住 南海入寺5月?	法全。秀栄亡(春より病、7月亡)	智観	嘉永2年~安政5年頃まで年預覚帳は南海の筆、南海はこの間福寿院住持だったのか。(No228 1月No208) 年預覚帳に福寿院の行動は5月10日より。作徳米受領は福寿院に代わり文殊院(3月 No241)古市行きは福寿院と文殊院のみ 大般若開眼供養出席は多聞院、文殊院のみ(4月No243) 秀栄葬儀に福寿院席あり(7月18日 No244)	古市行きは福寿院と文殊院のみ福寿院 福寿院算用受取を年預文殊院(3月 No241) 先住持秀栄死亡(7月18日No244) 法印秀栄の墓石があるがこの秀栄かは不明 日付読みとれず)葬礼座席図に御弟子中席があるので弟子がいたことが分かるがこれは法全のことか。	文殊院先住秀栄葬儀に多聞院席あり(7月18日 No244)
嘉永3	1850	戌	福	南海	法全	智観	年預覚帳、(No228)古市行きは福寿院と文殊院のみ 藩あて書類の院名は南海の筆跡(破損箇所8月 No249)松平和泉守登山の計画に3院(11月No250)但し宛先は多聞院、福寿院(11月 No481)	年預覚帳、古市行きは福寿院と文殊院のみ松平和泉守登山の計画に3院(11月 No250)但し宛先は多聞院、福寿院(11月No482)	松平和泉守登山の計画に3院(11月 No250)但し宛先は多聞院、福寿院(11月No482)
嘉永4	1851	亥	福	南海	法全	智観	宝物帳箱に多聞院智観、文殊院法全、福寿院南海の名(2月No541)宝物帳追目録に南海と法全の印、多聞院署名無し(2月No251)松平和泉守登山予定年預福寿院(4月 No250)大般若掟原稿に南海、法全、智観のサイン(8月 No252)高野山への寄附南海(10月 255 但し筆跡は南海でなく弟子の文雅か弁口? 文雅はこの頃から笠置寺にいたかは不明だが筆跡が似ている)	宝物帳箱に多聞院智観、文殊院法全、福寿院南海の名(2月No541)宝物帳追目録に南海と法全の印多聞院署名無し(2月 No251)大般若掟原稿に南海、法全、智観のサイン(8月 No252)	宝物帳箱に多聞院智観、文殊院法全、福寿院南海の名(2月No541)。宝物帳追目録に多聞院サインなし(2月 No251、これは無住以外の事情か?)大般若掟原稿に南海、法全、智観のサイン(8月No252)
嘉永5	1852	子	文	南海(12月まで?)	法全	真光・智観どちらか	南海秋田への休職願書(今12月~来年7月)(弟子が留守居、筆跡は南海)に3院サイン(12月No257) 銀借用願に3院連名のうえ捺印	南海秋田へ(今12月~来年7月)の願書に3院(12月No257) 銀借用願に3院連名のうえ捺印	南海秋田へ(今12月~来年7月)の願書に3院(12月No257) 銀借用願に3院連名のうえ捺印
嘉永6	1853	丑	多	無住?	法全	真光・智観どちらか	南海が秋田へ行ったか不明		
安政1(安政地震)	1854	寅	文	南海? 2~4月頃には南海戻り?	法全	真光(1月)→真剛(2月)→義祥(4月)	多聞院住持真光武州への願書の福寿院、文殊院添え書き(2月No258) 村方願書は南海筆跡 地震による破損申し立て(南海? No228 6月) 稲荷大明神勸請軒札に法全、南海、義祥連名(8月)	多聞院住持真光武州への願書の福寿院、文殊院添え書き(2月No259) 銭司役人から宛先、文殊様(8月No321) 稲荷大明神勸請軒札に法全、南海、義祥連名(8月)	多聞院住持真光武州への願書(2月 No258)多聞院動き無し(年預覚帳227) 住持真剛病気につき退院、後に義祥(4月 No261) 稲荷大明神勸請軒札に法全、南海、義祥連名(8月)

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多留院	福寿院	▽殊院	多留院
安政2	1855	卯	福	南海	法全	義祥	大久保左近來山届けに福寿院出迎え(2月 No262) 高猷見分のため当地泊まり、 法全 南海 義祥 名刺届け(4月 No263)、梵鐘調へ3院印(12月 No268)	高猷見分のため当地泊まり、 法全 南海 義祥 名刺届け(4月 No263)、梵鐘調へ3院印(12月 No268)
安政3	1856	辰	福	南海	法全	無住?	宗旨請込一札福寿院宛(1月 No270) 梵鐘調査は年預福寿院が代表して持参したい(4月 No271) 行場道人足寄附覚帳は 南海 筆跡(4月 No272)	年預覚帳(No227)に 義祥 の行動無し。離寺か?
安政4	1857	巳		南海(安政5,3迄? No285) 南海はこの年は秋田に帰っていない。	法全	無住	石垣寄進帳 南海 筆跡(2月 No278) 南海 5年の休暇願、留主居は 丈雅 と 卓山 (6月 No280) 老中脇坂登山の可能性ありとの報告福寿院、文殊院連名(11月 No11) 証札入箱の署名は 法全 と 南海 (12月 現物)	往来手形文殊院発行の筆跡は 南海 (4月 No279) 南海 5年の休暇願に文殊院添え書き但し筆跡は 南海 (6月 No280) 老中脇坂登山の可能性ありとの報告福寿院、文殊院連名(11月 No11) 証札入箱の署名は 法全 と 南海 (12月 現物)
安政5	1858	午	文	南海(3月まで)? 無住?南海4月以降丈雅に代わったか?	法全1月離寺願 法全はその後10月頃戻ったか、あるいは当時離寺していたか?	無住	笠置山三ヶ寺収納米覚帳」は南海の筆(3月 No285) 6月 丈雅 に50刃渡した記録あり(6月 No285)	法全 、法義修行のためお暇願(1月 No283) 文殊院住侶 豪晋 10月に亡、墓は 法全 が建立
安政6	1859	未		無住	無住	無住		
万延1	1860	申		無住	無住	無住	藩より本堂等の修復宛先は 御留主居僧 (3月 No335)	
文久1	1861	酉		無住	役僧は住持?あるいは代僧?	無住		文殊院宛て詫び一札、但し名宛ては御役僧中(8月 No286) 福田寺に関し泰巖の宛先が文殊院御役僧中様(8月 No287)
文久2	1862	戌		無住	役僧は住持?あるいは代僧?	無住		
文久3	1863	亥		無住	役僧は住持?あるいは代僧?	無住		名宛先が文殊院様(1月 No288)
元治1	1864	子		無住	役僧は住持?あるいは代僧丈雅?	無住		(筆跡より) 丈雅 金子借用(12月 No32)
慶応1	1865	丑		無住	役僧は住持?あるいは代僧丈雅?	無住		(筆跡より) 丈雅 金子借用(7月 No34, 35)
慶応2	1866	寅		無住	役僧は住持?あるいは代僧丈雅?	無住		修理山木柴算用書は大倉善右衛門纏め、この頃3院に正式住持はいなかったようである。丈雅のみか
慶応3	1867	卯		無住	役僧は住持?あるいは代僧丈雅?	無住	秋田組 丈英 の記事あり(阪大調査聖教No170)	
明治1	1868	辰		無住(某?)	役僧は住持?あるいは代僧丈雅?	無住	8月19日触書帳、福寿院住職就任の挨拶に古市に行く者あり(8月 No293)。この記録以外にこれに関する資料なし	先文殊院丈雅へ資金渡し(12月 No192)
明治2	1869	巳			無住		観音寺住 丈英 の記事あり(阪大調査聖教No170)。 丈英 は天保14年(1843年)6月誕生(除籍謄本)	
明治3	1870	午			無住			
明治4	1871	未			無住		宗旨請状名宛が笠置山御本寺中様(4月 No304)。	
明治5	1872	申			無住			
明治6	1873	酉			無住(渡辺俊丈)		智積院日鑑、明治6年9月5日記事に「福寿院 俊丈 御房が所轄願いのため智積院に出頭したが戸長の印形など形式が整っていないため後日書面を差し出す」との記事があり、同9日に再度願いが出されて10月13日に「御目見相済酒飯差出」された旨の記事あり。俊丈の名はこの時限りに現れるので住職なのか福寿院を代理したものか判然としな。智山年表明治6年10月30日の記事には「 福寿院が智積院の末寺となる 」と記載あり。このときの福寿院住持がいなのか、いたとすれば誰なのかは全く不明である。9月12日の記事に「秋田俊丈」の字句もあり、俊丈は南海につながる人物かもしれない。	
明治7	1874	戌			無住			
明治8	1875	亥			無住			

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
明治9	1876	子		丈英		智積院弘現大和上より10月に伝法許可灌頂印信を、12月に阿闍梨位を授与さる(笠置寺聖教 阪大調査書)。慶尊著の笠置山記に「丈英和尚(中略)明治9年錫を此山に留め荆棘荒地を開き・・・」とある。		
明治10	1877	丑		丈英				
明治11	1878			丈英				
明治12	1879			丈英				
明治13	1880			丈英				
明治14	1881			丈英				
明治15	1882			丈英				
明治16	1883			丈英				
明治17	1884			丈英				
明治18	1885			丈英		棟札に笠置山住職 丈英代 の名		
明治19	1886			丈英				
明治20	1887			丈英				
明治21	1888			丈英				
明治22	1889			丈英		「明治廿三年9月於新瀉港港寺町不動院道場加行の砌随師弘恵大阿之命書写受法了 笠置山寺徒弟 慶尊 」の記事		
明治23	1890			丈英または慶尊		除籍謄本「7月4日 慶尊 は 梅吉 より 慶尊 に変更」19歳。慶尊は不動院での修行を終えて正式に笠置寺入寺、出家したのであろう		
明治24	1891			丈英または慶尊				
明治25	1892			丈英または慶尊				
明治26	1893			丈英または慶尊				
明治27	1894			慶尊		27年9月大師堂修理棟札に現住 慶尊 の名		
明治28	1895			慶尊または尊応				
明治29	1896			慶尊または尊応		毘沙門堂修復棟札に 導師笠置寺現住尊応 とある。不動明王念誦次第写本(日付なし)表紙に「 秋田房察丈 」(朱書き)、丸朱印で「 尊応 」、丸墨印で「 大倉丈英 」の印。一時期尊応が在住していたことは間違いないが、 尊応 の名は慶尊の笠置山記にもその名はない。慶尊から昔の事を良く聞いていた私(義亮)もその名を聞いた事もない。何らかの事情で封印された人物かも知れない。		
明30年	1897			慶尊		明治29年の毘沙門堂修復棟札以降尊応の署名なし。おそらく以後住持慶尊が続くものと思われる		
明31年	1898			慶尊				
明32年	1899			慶尊				
明33年	1900			慶尊				
明34年	1901			慶尊		住職慶尊による「笠置山記」出版(7月)、この書に「丈英和尚明治9年錫を此の山に留め」とある。		
明35年	1902			慶尊				
明36年	1903			慶尊				
明37年	1904			慶尊		日口戦武運長久の棟札に前任職 丈英 、現住職に 慶尊 (4月) 現物の筆跡は慶尊。		
明38年	1905			慶尊				
明39年	1906			慶尊				
明40年	1907			慶尊				
明41年	1908			慶尊				
明42年	1909			慶尊				
明43年	1910			慶尊				
明44年	1911			慶尊				
大1年	1912			慶尊				
大2年	1913			慶尊				
大3年	1914			慶尊				
大4年	1915			慶尊		1月慶尊が 慶順 (M33年3月生まれ、幼名源吾を慶順に変更)と養子縁組。 丈英 死亡(除籍謄本4月)		

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多摩院	福寿院	▽殊院	多摩院
大5年	1916			慶尊				
大6年	1917			慶尊				
大7年	1918			慶尊				
大8年	1919			慶尊				
大9年	1920			慶尊				
大10年	1921			慶尊				
大11年	1922			慶尊				
大12年	1923			慶尊				
大13年	1924			慶尊				
大14年	1925			慶尊				
昭1年	1926			慶尊				
昭2年	1927			慶尊				
昭3年	1928			慶尊				
昭4年	1929			慶尊				
昭5年	1930			慶尊				
昭6年	1931			慶尊				
昭7年	1932			慶尊				
昭8年	1933			慶尊				
昭9年	1934			慶尊				
昭10年	1935			慶尊				
昭11年	1936			慶尊				1月慶範生まれ、幼名茂
昭12年	1937			慶尊				
昭13年	1938			慶尊				
昭14年	1939			慶尊				
昭15年	1940			慶尊				
昭16年	1941			慶尊				
昭17年	1942			慶尊				
昭18年	1943			慶尊				この頃、慶尊は既に隠居して毘沙門堂客殿や裏座敷で悠々自適の生活を送り、慶順が参拝の客の応対を為していた。
昭19年	1944			慶順				登記簿 「住職 昭和19年2月9日小林慶順」とある。実際の住職役の交代はそれ以前にあったことと思われる
昭20年	1945			慶順				
昭21年	1946			慶順				
昭22年	1947			慶順				
昭23年	1948			慶順→慶尊				登記簿 「昭和23年12月26日小林慶順死亡、慶尊住職に復帰。
昭24年	1949			慶尊→尊亮				慶順の子二人（法名中1の慶範、小4の義亮）が海住山寺佐脇範能僧正導師のもとに出家得道し（2月）、慶尊の弟子として笠置寺法灯の維持を図る。1年弱で慶尊死亡（除籍謄本 12月）。慶範と義亮は尊亮（慶尊の弟弟子として丈英に仕えていた。隣村大河原村春光寺住職）の弟子となる。慶尊死亡後尊亮が笠置寺の兼務住職となる。
昭25年	1950			尊亮				
昭26年	1951			尊亮				
昭27年	1952			尊亮				
昭28年	1953			尊亮				
昭29年	1954			尊亮				
昭30年	1955			尊亮				

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多聞院	福寿院	▽殊院	多聞院
昭31年	1956			尊亮				
昭32年	1957			尊亮				
昭33年	1958			尊亮				
昭34年	1959			慶範		登記簿 「昭和34年4月5日増田 尊亮 死亡」、尚尊亮の誕生は明治17.3。「同年4月20日小林 慶範 代表役員に就任」。慶範は54年の長きに亘り住職を務め、戦中、戦後でままたまならなかった諸堂の復旧整備に全力を注入した。おそらく1300年を超える笠置寺の歴史での住職最長記録であろう。		
昭35年	1960			慶範				
昭36年	1961			慶範				
昭37年	1962			慶範				
昭38年	1963			慶範				
昭39年	1964			慶範				
昭40年	1965			慶範				
昭41年	1966			慶範				
昭42年	1967			慶範				
昭43年	1968			慶範				
昭44年	1969			慶範				
昭45年	1970			慶範				
昭46年	1971			慶範				
昭47年	1972			慶範				
昭48年	1973			慶範				
昭49年	1974			慶範				
昭50年	1975			慶範				
昭51年	1976			慶範				
昭52年	1977			慶範				
昭53年	1978			慶範				
昭54年	1979			慶範				
昭55年	1980			慶範				
昭56年	1981			慶範				
昭57年	1982			慶範				
昭58年	1983			慶範				
昭59年	1984			慶範				
昭60年	1985			慶範				
昭61年	1986			慶範				
昭62年	1987			慶範				
昭63年	1988			慶範				
平1年	1989			慶範				
平2年	1990			慶範				
平3年	1991			慶範				
平4年	1992			慶範				
平5年	1993			慶範				
平6年	1994			慶範				
平7年	1995			慶範				

年代	西暦	年	福寿院	▽殊院	多磨院	福寿院	▽殊院	多磨院
平8年	1996			慶範				
平9年	1997			慶範				
平10年	1998			慶範				
平11年	1999			慶範				
平12年	2000			慶範				
平13年	2001			慶範				
平14年	2002			慶範				
平15年	2003			慶範				
平16年	2004			慶範				
平17年	2005			慶範				
平18年	2006			慶範				
平19年	2007			慶範				
平20年	2008			慶範				
平21年	2009			慶範				
平22年	2010			慶範				
平23年	2011			慶範				
平24年	2012			慶範				
平25年	2013			慶昭		登記簿 「役員に関する事項；小林慶昭 平成25年8月1日就任、平成27年3月26日登記」		
平26年	2014			慶昭				
平27年	2015			慶昭				
平28年	2016			慶昭				
平29年	2017			慶昭				
平30年	2018			慶昭				
令1年	2019			慶昭				
令2年	2020			慶昭				
令3年	2021			慶昭				
令4年	2022			慶昭				
令5年	2023			慶昭				
令6年	2024			慶昭				
令7年	2025			慶昭				

明治29	1896			(尊応)	毘沙門堂修復棟札に導師笠置寺現住 尊応。但し尊応の名は笠置寺に代々
明治37	1904			慶尊	日口戦武運長久の軒札に前任職丈 英、現住職に慶尊
昭和19	1944			慶順	登記簿 「住職 昭和19年2月9日 小林慶順」
昭和23	1948			尊亮	登記簿 「昭和23年12月26日小林 慶順死亡、昭和25年8月22日増田尊
昭和34	1959			慶範	登記簿 「昭和34年4月5日増田尊 亮死亡、同年4月20日小林慶範代表
平成25	2013			慶昭	登記簿 「役員に関する事項；小林 慶昭 平成25年8月1日就任、平成

